

蒲生干潟の植物②⑧

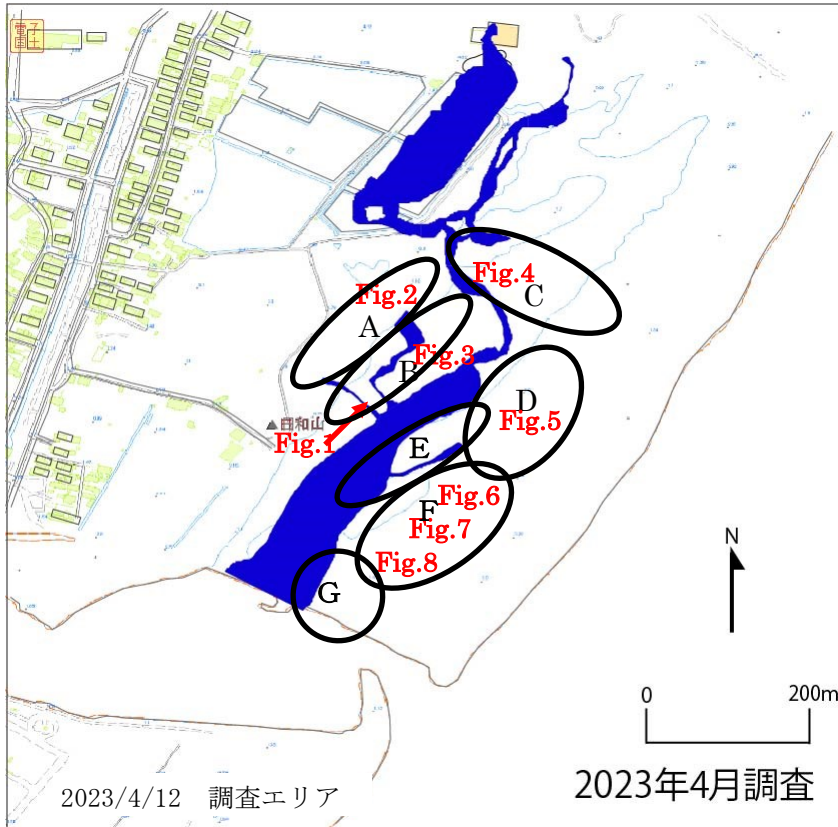


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



ヨシ



ハママツナ

Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアBで撮影



シオクグ



ケカモノハシ



コウボウムギ



ハマエンドウ



ハマボウフウ

Fig.4 エリアCで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアFで撮影

Fig.7 エリアFで撮影

Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2023年4月12日（水）9:45～11:30，天気：くもり

満潮後の調査で、干潮に向かって水が引いている最中で比較的水量が多かった。定点観測では、エリアBに水が流入しているのが分かる（Fig.1）。エリアAのヨシは、新しい個体が40cmほどに伸びていた（Fig.2）。先月には確認できなかったのが、急激な成長と言える。エリアBのハママツナは、個体数が多く確認できた（Fig.3）。水が流入したところにはホソウミニナも一緒に流入していた。エリアCでは、シオクグ群落の根元に20cmほどの個体が見られた。穂はまだ確認できていない（Fig.4）。エリアDで見られるケカモノハシは、叢生している中心をかき分けると新しい個体が確認できるが、遠目ではほとんど確認することができない状態であった（Fig.5）。エリアFでは、コウボウムギやコウボウシバが確認できた。新しい穂がすでにできてはいたが、まだ小さくもう少し大きく成長するものと思われる（Fig.6）。ハマエンドウの葉が広範囲に生い茂っており、葉の数が非常に多かった。これまでよりもさらに生息範囲が広がっていた（Fig.7）。マツの近くにはハマボウフウも確認できた（Fig.8）。これから徐々に花が増えていくものと思われる。

（宮崎佳彦）